少数民族と日本の子どもたちに！

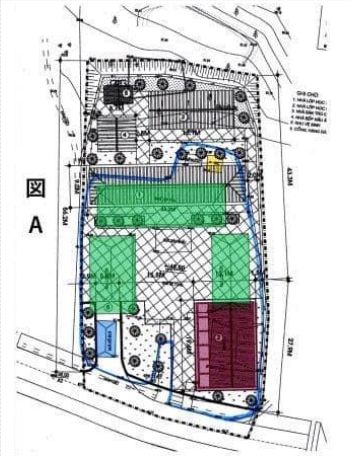
●経営革新塾しよう会講演会／その２

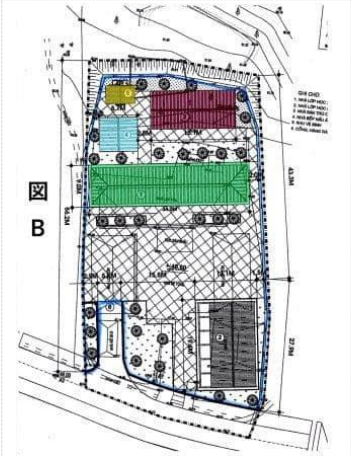
20 日夜の認定 NPO 法人シーエスアールスクエア理事長の宍戸仙助様のご講演「リタイヤ後は、利他 Years！ ～東南アジアの山岳少数民族の子どもたちの輝く瞳に学ぶ～」の続きをどうぞ。

◇　◇

◆子供たちの学習環境の改善　【シーエスアールスクエアの facebook や公式 HP より一部引用】

最初に学校建設ですが、ベトナム北部の山岳少数民族の村です。Tuyen Quang 省、Lam Binh 郡の Phuoc Yen 小学校の Na Khieng 分校の改築の事例です。Na Khieng 分校は、120 人のザオ族やターイ族の子供達が学ぶ学校です。左側の図 A が現状ですが、紫色の②の校舎は、解体の必要な危険校舎、その他の緑の現在の校舎もかなり傷んでいます。左下の青の小さな建物は、先生方の宿舎です。校舎の北側には、黄色の小さなトイレがありますが、屋根も無く臭いも酷く、使える状態でありません。右側の図Bが改築計画です。現地行政でも、支援金の数倍の予算を確保し、それらの校舎の全てを取り壊し、校地も１.５倍ほどに広げ、新しい２階建ての①の新校舎、③は、遠くから通学してくる子供達のための寮です。５０人ほどが寝泊まりすることになります。④は、食堂と台所です。⑤が新しいトイレです。小規模水力発電所は、この学校の裏山を 1km ほど上った沢に小さなダムを作り、そこに２つの発電機を設置して、電気を供給する計画です。





電気のない村の学校に水力発電を導入して、学校と村の住宅に電気を灯した

３年前にこの計画ができ、３月９日に調印式があったのですが、コロナでフライトがなくなりました。４月末ま工事スタートもフライトがなく、11 月に校舎が完成してもフライトがないんです。実は電気がない村なのですが、２階の教室に電気が点いているのが見えると思います。ここでは電気がないと何にもならないので、ソーラーやバイオマスなどいろいろと考えました。結果的には裏山に一年中枯れない沢があり、湧水があるので、その村の人たちの飲み水にもなっている水源を一部活用して水力発電をすることにしました。3Kw で 15 軒の家に電気を送り、8Kw で学校の電気を提供することにしました。水力発電した水はそのまま飲料水に使うこともできます。結果的に完成しても行けなかったら、現地の住民と行政の人たちが、宍戸が可哀そうだからと言って YouTube の動画を送ってくれました。しかも、ドローン撮影も入っているものでした。涙が出るほど嬉しかったですねぇ。ぜひ、その動画を見てください。【動画の一部より】

この動画は８月末の映像です。あちらは９月１日から新学期が始まりますので、その前日に学校でイベントを行い、生徒や家族を招くのですね。そうしないと子どもたちが学校に来させてもらえない家もあるのです。日本人が学校を作ってくれたというので、浴衣の絵まで描いてくれました。ここでは 12 の少数民族が助け合って暮らしています。習慣も言葉も違う民族です。帽子を被っているのはザオ族の衣装、黒いのがキーン族です。少数民族がイベントを行うというと必ず公安の人間が見張りに立ち会います。外国に動画を送るというので初めてマスクをしたようです。最初で最後かもしれませんね。子どもたちが仲良くなり、言葉の通じない母親たちも交流するようになり、学校が違い民族間でもコミュニティの場となります。

◆日本の児童生徒による継続支援と交流活動

後ろに青い龍があるのですが、先ほどの校舎の落成式に飾ってくださいと預かっていたものです。緑色と黄色のバージョンもあります。東京都町田市立南大谷小学校の子どもたちが作ってくれたものです。預かったものの行くことができず、結局、郵送しました。校門の前で広げた写真を撮って送ってねと言ったら、現地では階段室の踊り場壁面に取り付けてくれました。30cm ほど出っ張っているのですが、子どもたちが作ってくれたものを切れないと校長先生が言って、少し出っ張っています。実は、その南大谷小学校に昨日行ってきました。去年の 8 月にやっとベトナムに行くことができ、子どもたちと会うことができました。そんな報告をしてきました。

2020 年 3 月 11 日に紹介されている南大谷小学校の「Flying Dragon(空翔ける龍)」の作成風景(Facebook)

次は、ベトナム北部、Tuyen Quang 省、Lam Binh 郡、Phieng Mo 社に建設中の Phuc Yen 小学校のトイレ建設のお話です。ここは 12 の民族が暮らす地域で、先生が７人で生徒が 89 人なのに学校にトイレがないんですよ。先生がそれは可哀そうだというので、手作りでレンガのトイレを作りました。でも、土に穴を掘っただけで、ドアもないものです。しかも１つ。これを知った神奈川県北鎌倉にある鎌倉学園の高校生が中心となり資金集めに取り組んでくれ、支援者も現れて建設予算の 40 万円を超える資金が集まり、このようなトイレが完成しました。訪問出来たのは、昨年８月６日ですが、子供たち 30 人ほど、先生方７人、村人 20 人ほどが、出迎えてくれました。夏休み中で暑さの中にもかかわらず、民族服を着て。校長先生が着ているのが、ザオ族の民族服です。このプレートには、神奈川県鎌倉学園・福島南高等学校・町田市立南大谷小学校・大日向小中学校などの学校名を刻んだのですが、実は足りなくて多くの大人の方々からの支援をいただき 80 万円でできたトイレです。ある小学校でこうした話をしたら帰りに 37,000 円を渡され、現地の皆さんが必要なものを買って欲しいと言われ、校長先生に連絡すると大型のスピーカーが欲しいと言われ、足らない分は先生たちが払うというので、スピーカーをプレゼントすることなりました。

学校トイレ支援提案書

ベトナム北部、
トゥエン・クアン(Tuyen Quang)省、
ラム・ビン(Lam Binh)郡、
フック・ソン(Phuc Son)社
バン・タン(Ban Tang)村、
フック・ソン(Phuc Son)小学校

フック・ソン社(Commune)は、去年まで南隣のチエン・ホア(Chiem Hoa)郡に属していましたが、昨年の６月からラム・ビン郡に併合された貧しい社(Commune)です。郡の中心地から1000m を越える山の南斜側の山奥にあります。少数民族のザオ(Dao)族、モン(Mong)族の人々が中心ですが、その他、少数のターイ(Tai)族などの人々で、家で使う言葉は、それぞれの少数民族の言語です。歴史も文化も民族服も違う１２の山岳少数民族、人口 7,929 人、1,883 世帯の人々が、仲良く助け合って暮らす村です。

フック・ソン社には、小学校は５校あり、バン・タン村のこの分校は、その一つです。左が、現在のバン・タン分校のトイレです。今年５月に、先生方の手で作られた男女兼用たった一つの、扉もない、土に穴を掘っただけの簡易トイレです。現在、89 名の児童が、教員５人と学ぶこの学校に、このトイレ、一つです。休み時間などには、列を作って並びますが、短い休み時間だけでは、間に合わないことがしばしばで、男子は外で、女子は互いに連れ立って野原へ行きます。耐えきれず、腹痛を訴える子どももいます。

郡の行政に、新しいトイレ建設を要望していますが、郡の財政も乏しく、予算が確保できないでいます。

奥地には、年収 40,000 円程度で、自給自足の生活を余儀なくされている人々も多く住むこの村には、各家庭には、便器のついた水を流せる衛生的なトイレなどは、ほとんどありません。ですから、学校のトイレが、とても大切なのです。そのトイレが十分でないことは、この地域にとって、重要で深刻な問題なのです。

建設予定の新しいトイレ
鋼板屋根、レンガ平屋造り、水洗沈殿槽式
女子トイレ便器６個
男子トイレ便器３個、小便器は南種式
建設予算４０万円

(右：男子トイレの完成イメージ写真)

こうした現地の様子を動画や写真で紹介するだけでなく、現地の子どもたちと日本の子どもたちを Zoom で結んで同時に中継するようなことも行っています。これは、昨年 12 月の高校生訪問団の写真です。高校生 32 人、引率者等 16 人でした。観光地では面倒な手続きはないのですが、山岳少数民族の村に行くとなると手続きが大変です。私はライセンスを持っているのですが、それでも外務局、教育訓練局、さらに公安にどういう人間が何の目的で誰を訪ねていくのかということをしっかりと文章で提出して許可が下りないとだめなのです。それだけナーバスな地域なのですね。

今年も８月初旬に指導者を引率して訪問し、後半では高校生を引率したので、その疲れが出て免疫力が下がって 10 日前に帯状疱疹が出てしまったのです。　《つづく》